

ネズミの彫刻

上の彫像(標本番号H180684、長さ/51cm)
下の彫像(標本番号H102389、長さ/36cm)

松山 利夫(まつやま としお)

本館民族社会研究部

オーストラリアには、特徴的な動植物が多い。写真上(表紙)のネズミは、オーストラリア大陸中央部から西部にかけての砂漠とその周辺の乾燥地域にすむトビネズミである。長い尾と発達した後ろ足をもつネズミで、名前とおり後ろ足でジャンプし、長い尾でバランスをとつてすばやく移動する。前足は小さくて、穴を掘るなどのほかはほとんど使わない。おもに植物の種子や根を食べ、地下の穴に生活するという。

砂漠に住む先住民ピチャンチャチャラをはじめとする人々は、一九八〇年代半ば以降、焼き針金で模様を施したこのネズミの彫刻を、土産品として制作し観光客に販売してきた。素材に



は砂漠に生えるユーカリやアカシアの木の根が使われる。写真是一九九二年に収集した作品で、彫刻では長い尾とともに、大きな目と耳をもつことが強調されている。

また、大陸北部のアーネムランドに住むヨロンゴの人たちも、ネズミの彫刻を土産品に制作する。ここに示したのはノネズミの彫刻で(写真下)、砂漠の作品とはちがいオーカー(顔料)で彩色されている。このほかアーネムランドの川や沼には、泳ぐために水かきをもつミズネズミもすんでいる。さまざまなネズミの彫刻は、オーストラリアにおけるこの動物の多様さを反映しているのだろう。